

# 栃木県教育委員会定例会会議録

令和6(2024)年1月9日(火)、栃木県教育委員会定例会を栃木県庁南別館内教育委員室に招集した。

1 出席者(教育長及び委員)は次のとおりである。

1 番(教育長)	阿久澤	真理
2 番	板橋	信行
3 番	鈴木	純美子
4 番	金子	達也(欠席)
5 番	永島	朋子
6 番	松金	公正(欠席)

2 議事に参与した職員は次のとおりである。

教育次長	大森	豊
教育次長	長	裕之
参事(高校再編推進担当)	佐瀬	学
総合教育センター所長	大高	栄男
教育政策課長	高林	実
施設課長	和久井	浩
学校安全課長	松本	正
義務教育課長	山岸	一裕
高校教育課長	山下	拡男
特別支援教育課長	玉田	敦子
生涯学習課長	長野	辰男
健康体育課長	角田	正史
総務主幹	細川	智彦
教育DX推進室長	高橋	伸輔
福利室長	堀内	玲子

3 午前9時30分、教育長及び委員4名が出席しており、委員会は成立したので、教育長は定例会を開催する旨を告げた。

4 教育長は、本日の会議録署名委員に2番板橋委員を指名した。

5 教育長は、報告を受ける旨を告げた。

6 報告

- (1) 令和5(2023)年度中学校等生徒の進路希望調査(第2回)の結果について教育長から説明を求められ、総合教育センター所長が説明した。  
この報告に関して、出席者から次のような質問や意見等があった。

[委員]

- ・ 3ページの表2について、前回調査と比べると、全日制の県立高校が659名減って、私立高校が539名増えているという状況だが、毎年、1回目から2回目に県立が減って私立が増えるという傾向なのか。

[事務局]

- ・ 昨年度との比較でみると、同じような傾向にはなっている。2回目ということで、生徒も自分の方向性を絞ってきているということだと思う。

[委員]

- ・ 就職を希望している生徒について、就職が決まっていな子もいると思うが、卒業するまでには決まる見込みなのか。それとも、未定のまま卒業するのか。

[事務局]

- ・ 今後決まる方向になるかと思うが、どうしても決まらない者は「その他の者」という内訳の方に入ってくる。そこは、個々人が方向性を判断しながらになると思う。

[委員]

- ・ 生徒や保護者が決められない状況にあるという認識でよいのか。それとも発達等に障害があつて就職が難しいということなのか。今、多様な学びがたくさんあるところで、就職を希望しているが、決まらないのはどういうところに要因があるかをお聞きしたい。

[事務局]

- ・ 未定となる「その他の者」の人数自体は、1回目の調査に比べるとかなり減っている。方向性は徐々には見つけているかと思うが、ただ、進学先や就職先をうまく見つけられない家事手伝いであるとか、目標が定まらないなどの生徒も若干出てきてしまうというのは実際のところかと思う。

[教育長]

- ・ 直接今回の募集とは関係はないが、高校再編計画で対象になった学校で、例年と違う動きが出ているところはあるか。

[事務局]

- ・ 今回の再編計画案でお示ししている学校では、今回の調査において、学級数等に変更があるのは特例校である。傾向として、大きな変動はないが、学級数が減ることと倍率は去年に比べて高めにしている。

[教育長]

- ・ 伝統校といわれる栃木、大田原、真岡あたりがここ数年、募集定員割れに近いような状況が続いているが、この辺りの分析は何かあるか。

[事務局]

- ・ 明確な根拠はなく、明言できる理由はないが、推測としては、受験する場合にいわゆる進学校というイメージの中で、中学校で進路指導する際にある程度のこの水準の学力の生徒というイメージが生徒たちにもあり、その希望がそのまま反映されると、1倍を切ってしまうような状況になっているのではないかと思う。

[委員]

- ・ 今の話とは逆に、宇都宮白楊高校は倍率が高く、今年も食品科学科は2倍を超え

て、これだけ毎年人気が高いというのは、やはりそれだけ特徴があるとか、若しくは、就職がよいとか要因があるのか。

〔事務局〕

- ・ 一番大きいところは、おそらく宇都宮地区にある学校ということで、地の利の面で、周辺地域からも生徒たちが入ってくるという部分があるかと思う。また、そうした中でやはり伝統校となる学校が普通科でも専門学科でも非常に多いので、そうした部分のイメージや、当然中央地区から他地区への就職という部分でも求人なども多いという傾向も見られると思うので、様々な要素から希望が高くなっているかと思う。

(2) 令和7(2025)年度栃木県公立学校新規採用教員選考の主な変更点について

教育長から説明を求められ、義務教育課長が説明した。

この報告に関して、出席者から次のような質問があった。

〔教育長〕

- ・ 面接試験の関係で、他県と比較した時に、このような面接試験の変更などは本県のオリジナリティが高いのか、それとも多くの県で今こういう方向で進められているのか、どのような状況か。

〔事務局〕

- ・ 近県においても、人物重視というところが重視されており、個人面接は全て実施しているが、その他、模擬授業の実施や、集団討論も若干やっているところもある。そういった中で、より受験者の負担軽減を図りながら、1人1人の資質を見極めることができるように、個人面接を実施してきたところなので、面接を2つ実施して、総合的に見ていく。

〔教育長〕

- ・ 各県それぞれのやり方はあるけれども、面接を重視していくという方向性は変わらない。その手段として、栃木県としては、集団討論よりは角度を変えた2回の面接の方が、より人物に迫れるという判断をするということである。

〔委員〕

- ・ そういう意味合いで作文を削除されたというのは、作文ではあまり個人の資質を把握することが難しいということなのか。

〔事務局〕

- ・ 個人面接を充実させることを第一と考えて、その中で、これまで作文などで聞いていた内容を聞いていくこととしている。県立学校については、特に大学入試の指導などで求められるものが多いので、引き続き実施していく。

〔委員〕

- ・ 作文と論作文の違いは何か。

〔事務局〕

- ・ 作文については、基本的には教員の実践意欲等もよく見ていくというところでスタートしたものだが、実はすべての教員が生徒の進学や就職の作文指導に当たるといふ高等学校の特性もあり、論理的な能力もこの採用段階で見させていただくこと

としている。客観的に自分の意見や考えをまとめて述べるという要素を強めたものとしての論作文の実施と変更させていただいた。

[委員]

- ・ 「個人面接の実践的な指導力に関する面接」とあるが、先ほど模擬授業というお話があったが、具体的に内容が決まっていれば教えていただきたい。

[事務局]

- ・ 具体的な内容については、今後検討していくことになる。他県では模擬授業などもやっているところもあるが、限られた時間なので、模擬授業の形にするのかどうかということは、今後改めて検討していきたいと思う。実践力については、色々な質問をする中で聞いていきたいと考えている。

[委員]

- ・ トータルの所要時間は、変更前と変更後でどれくらい差があるか。

[事務局]

- ・ 個人面接を2回に分けるが、集団討論は45分間行っていたので、それから考えると短くなる。作文も含めて、受験者は2日間来なければならなかったが、スケジュールの組み方を工夫して、1日のみになると思う。内容の充実を図った上で、受験者の負担を考慮しながら、短い時間の中で実施していきたい。

(3) 令和7(2025)年度栃木県立中学校入学者選考関係諸日程について

教育長から説明を求められ、高校教育課長が説明した。

この報告に関して、出席者から次のような質問や意見等があった。

[委員]

- ・ 郵送による出願とあるが、今まで郵送による出願のトラブルは起きたことはないか。

[事務局]

- ・ 郵送によるトラブルはないが、書類の不備のため、学校や個人と連絡を取るなどはしている。

(4) 令和7(2025)年度栃木県立高等学校入学者選考関係諸日程について

教育長から説明を求められ、高校教育課長が説明した。

この報告に関して、出席者から次のような質問や意見等があった。

[教育長]

- ・ 昨年の秋に、入試制度の改善についての方針の説明があったが、その方針が適用されるのは、令和9年度の試験からという方向でよいか。

[事務局]

- ・ そのとおりである。令和9年度入学者選抜からである。

(5) 令和7(2025)年度栃木県立特別支援学校入学者選抜関係諸日程について

教育長から説明を求められ、特別支援教育課長が説明した。

この報告に関して、出席者から質問や意見はなかった。

(6) 「令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」及び「令和5(2023)年度栃木県児童生徒の体力・運動能力調査」の結果について

教育長から説明を求められ、健康体育課長が説明した。

この報告に関して、出席者から次のような質問や意見等があった。

[教育長]

- ・ 2ページの国の調査で、男子は全国平均よりも低い、女子が高いというのは、何か理由として分析できることはあるか。

[事務局]

- ・ 理由までは分析できていないが、質問紙調査とのクロス集計をしていくと、男子の課題や女子が全国平均よりも高い理由など見えてくるかもしれない。女子の運動部加入率が、全国よりも高い傾向であるのは分かっているが、今回の調査は小学生も対象なので、学校の取り組み方なども含めて分析していかなくてはならないと考えている。

[委員]

- ・ 近年、体が硬い子どもが多いと私も感じており、それが長座体前屈の結果にも出ているように思う。外遊びが少なくなったり、スポーツをしている子どもでも体が硬かったりするが、資料5ページの状況をみると、過去の平均値よりも上回ったという印が付いているので、学校で何か対策を講じられているのか、分かる範囲で教えてほしい。

[事務局]

- ・ 長座体前屈は全国調査を見ると、本県は男女ともに全国平均を下回っている。そういったこともあり、今まで走・跳・投をメインに取り組んできたが、柔軟性を高める運動も意識しましょうと指導主事を通して学校に話をしてきた。また、コロナ禍に、動画を見て家庭の中で運動しましょうという国の取組があり、その中には親子でできるストレッチ等が多く含まれていたことも、本県の結果には影響していると思う。また、全国的にも長座体前屈の数値は上がっている、成果として現れているとみている。

[委員]

- ・ やれば結果が出るということだと思う。柔軟に関しては、ケガ予防としても重要なことだと思うので、今後も続けていただきたいと思う。

[委員]

- ・ 先ほど、女子の方が結果がよいという話があったが、中2男子に限っては、体力合計点41.79と全国平均を大幅に上回ると同時に、平成25年から最高値となっているが、何か要因はあるか。

[事務局]

- ・ V字回復しているので、驚いているが、要因は分析できていない。

[委員]

- ・ ぜひ分析していただいて、次に活かしていただくようお願いしたい。

7 教育長は、審議に移る旨を告げた。

8 第1号議案 第三期県立高等学校再編計画について

第1号議案は、審議の結果、原案どおり可決された。

この議案に関して、出席者から次のとおり意見があった。

[委員]

- ・ 未来共創型専門高校を統合によって、しっかりと作り上げていく、若しくはフレックス・ハイスクールなど、新しい動きを含めた前期計画だと思う。先ほどの宇都宮白楊高校ではないが、専門高校もしっかりと面白みを出すと、それだけ生徒にとっての魅力が高めることもできると思うので、ぜひ、地元並びに各企業等といろいろ連携を取りながら、新しい学校づくりを進めていただければという要望が1点である。
- ・ 生徒数が前期計画中の6年間で2,028人減少するということがだが、後期計画中には、さらに減少が進み、2,796人減少することが予想されている。生徒数全体が少なくなる中で、一方ではハードを統合することによって、ハードの質を高めることもできるだろうし、ソフト関係も少人数化して充実させることもできると思うので、そういう中で、他県からも生徒を呼べるような特色のある学校についても、後期計画では考えていただきたいと思う。
- ・ また、統合するにあたって、通学の問題は、どうしてもついて回ると思うので、後期計画で、しっかりと検討いただければと思う。  
もし、後期計画について、特に考えていることがあれば教えてほしい。

[事務局]

- ・ 三期計画の期間は12年間となり、後期計画については前期計画中に策定することになるが、現段階で具体的に定まったものはない。生徒数の減少傾向という点でいうと、後期は前期よりも減少幅が大きくなる見込みということもあって、基本計画で設置を謳っている未来共創型専門高校やフレックス・ハイスクールなどについては、三期計画全体を通して設置をしていく。委員から御要望と御指摘のあったとおり、市町や地域の関係者等とも十分連携をしながら、後期計画に向けても十分検討を深めていきたいと考えている。

[委員]

- ・ 新しい学校ができると、スクール・ポリシーや制服を決めていくことになると思うが、制服については学校を決めるにあたって、重要なポイントである。今、ジェンダーの問題もあるので、男女の差がない、魅力的な新しい制服ができたらいと思う。そういったことについては、どのようなメンバーで決めているのか。

[事務局]

- ・ 制服や校名、校歌、教育内容のスクール・ポリシー、特色ある教育活動などについては、学校、地域の関係者、学識経験者や県教育委員会事務局の職員などを委員とする新校設立準備委員会で決めていくことになる。基本的に開校3年前に設置をして、検討を進めていく。

[委員]

- ・ ぜひ、若い方も含めて、柔軟な発想ができるようなメンバーで検討いただきたい。

[委員]

- ・ 真岡北陵高校の介護福祉科は案では募集停止ということだったが、地域等から多くの要望や意見が寄せられて存続となった。今後も生徒数の減少もあり、毎年の募集定員の確保というのが、これから重要になってくると思うが、地域の団体等の協力を得て、今後も募集定員の確保と学校の魅力を発信していくことをこれまで以上に頑張っていたきたいと思う。
- ・ 前期計画では男女別学校の共学化というのが盛り込まれていなかったが、後期計画に向けて、引き続き検討を進めていただきたいと思う。

[教育長]

- ・ 今の意見の中で共学化の話があったが、これについて何かあるか。

[事務局]

- ・ 共学化に関しては、基本計画において、共学化を推進していくと盛り込んでいる。後期計画での実施に向けて、社会情勢や各高校の実情などを踏まえながら、検討を進めていきたいと考えている。

[委員]

- ・ 先ほど、制服の話があったが、現実的にジェンダー問題を考えてみた時にリスクもたくさんあるような気がするが、制服の自由化、例えば制服を廃止するなど議論が出たことはあるか。

[教育長]

- ・ 制服の自由化とか校則の見直しとか、全体の中でのこれまでの議論の経過など何かあるか。

[事務局]

- ・ おそらく制服というのが学校のイメージとか、制服で人気が出るというような部分があるので、廃止の方向で検討する学校というのは、これまで聞いていないが、過去に1度、私服にした学校が改めて制服を設定し直したというような例はある。今後、ジェンダー関係で、共通制服や私服化の動きも全国的にも出てくる可能性もあるので、検討の際にはそのようなことも含めて考えていくことが必要だと思う。

[教育長]

- ・ 今、制服がないのは宇都宮女子高のみか。

[事務局]

- ・ 県立高校の定時制は私服だが、全日制では宇都宮女子高のみである。

9 第2号議案 会計年度任用学校職員の給与及び費用弁償に関する規則の一部改正について

第2号議案は、審議の結果、原案どおり可決された。

この議案に関して、出席者から質問や意見はなかった。

10 第3号議案 令和6(2024)年度栃木県立高等学校の生徒並びに特別支援学校の高等部の生徒及び幼稚部の幼児の募集定員について

第3号議案は、審議の結果、原案どおり可決された。

この議案に関して、出席者から質問や意見はなかった。

- 11 教育長は、以上で本日の会議を終了することを告げ、午前10時58分、閉会した。